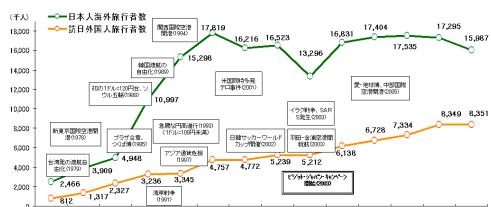


渡航感染症について

日本人の海外渡航者数の推移

訪日外国人旅行者数及び日本人海外旅行者数の推移



海外渡航時の健康管理や病気予防の重要な要素

- ・行き先で気を付けるべき病気が何かを知る
滞在国内で流行している感染症の情報を調べる⇒ワクチン接種
- ・自分の健康状態を知る
糖尿病、気管支の喘息、狭心症などの持病がある人⇒かかりつけ医に相談
- ・環境の変化が病気を引き起こすことを知る
時差、気候、気圧など

海外でかかりやすい感染症

感染経路	感染症	主な流行地域
飲食物からの感染	旅行者下痢症	発展途上国
	A型肝炎	発展途上国
	ポリオ	南アジア、アフリカ
患者の飛沫などで感染	腸チフス	発展途上国(特に南アジア)
	インフルエンザ	全世界
蚊に媒介	結核	発展途上国
	流行性髄膜炎	西アフリカなど
	マラリア	発展途上国(熱帯・亜熱帯)
	デング熱	東南アジア、中南米
	日本脳炎	アジア
性行為で感染	梅毒	熱帯アフリカ、南米
	B型肝炎	アジア、アフリカ、南米
	梅毒	発展途上国
動物から感染	HIV感染	全世界(特に発展途上国)
傷口から感染	狂犬病	全世界(特に発展途上国)
	破傷風	全世界

広島県内における海外で感染した事例

区分	コレラ	赤痢	腸チフス	パラチフス	アメーバ赤痢	マラリア	デング熱	A型肝炎	合計
平成25年	1人	1人	1人	0人	3人	1人	1人	1人	11人
平成24年	0人	2人	0人	0人	4人	0人	2人	1人	9人
平成23年	0人	5人	1人	0人	1人	0人	0人	3人	10人
平成22年	1人	3人	0人	1人	2人	1人	3人	2人	13人
平成21年	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	3人

予防接種の有無

感染症	主な流行地域	予防接種の有無
旅行者下痢症	発展途上国	
A型肝炎	発展途上国	○
ポリオ	南アジア、アフリカ	○
腸チフス	発展途上国(特に南アジア)	○*
インフルエンザ	全世界	○
結核	発展途上国	○
流行性髄膜炎	西アフリカなど	○*
マラリア	発展途上国(熱帯・亜熱帯)	
デング熱	東南アジア、中南米	
日本脳炎	アジア	○
黄熱	熱帯アフリカ、南米	○
B型肝炎	アジア、アフリカ、南米	○
梅毒	発展途上国	
HIV感染	全世界(特に発展途上国)	
狂犬病	全世界(特に発展途上国)	○
破傷風	全世界	○

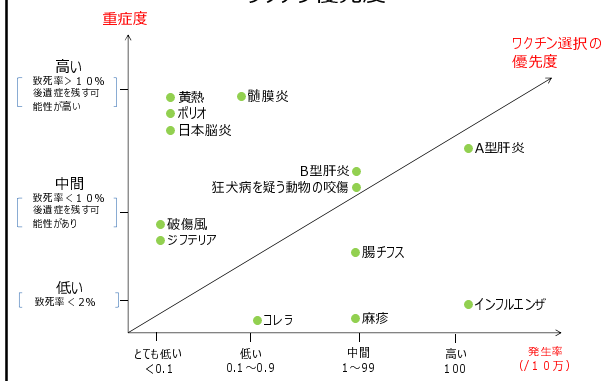
※腸チフス、流行性髄膜炎には予防接種は有りますが、日本では認可されていません。

各地予防接種の推奨

地域	短期旅行者*				長期滞在者(短期旅行者でも通常の観光ルート以外に立ち入る場合を含む)				
	A型肝炎	黄熱	A型肝炎	B型肝炎	破傷風	狂犬病	黄熱	日本脳炎	ポリオ
東アジア(中国、韓国など)	○		○	○	○	○			○
東南アジア(タイ、ベトナムなど)	○		○	○	○	○			○
南アジア(インドなど)	○		○	○	○	○			○
中東(サウジアラビアなど)	○		○	○	○	○			○
アフリカ(ケニアなど)		○ (赤道周辺)	○	○	○	○		○	○
ヨーロッパ(ロシアなど)	○		○	○	○	○			
ヨーロッパ(イギリス、フランスなど)					○				
北アメリカ(合衆国、カナダなど)					○				
中央アメリカ(メキシコなど)	○		○	○	○	○			
南アメリカ(ブラジルなど)		○ (赤道周辺)	○	○	○	○		○	○
南太平洋(グアム、モロニアなど)	○		○	○	○	○	△ (島による)		
オセアニア(オーストラリアなど)					○				

*短期旅行者：滞在期間が1ヶ月未満で都市部やリゾートなどに滞在する者

ワクチン優先度



海外渡航の際に考慮すべき予防接種の回数と有効期限

予防接種	接種回数	接種日	有効期間
黄熱 ¹⁾	1回		10年間
A型肝炎	3回	初回、2~4週後、半年~1年後	5~10年間
B型肝炎	3回	初回、4週後、半年~1年後	10年間以上
破傷風 ²⁾	3回	初回、4週後、半年~1年後	10年間
狂犬病 ³⁾	3回	初回、4週後、半年~1年後	2年間
ポリオ ⁴⁾	2回	初回、6週後、1年後	10年以上
日本脳炎 ⁵⁾	3回	初回、1~4週後、1年後	4年間

1)黄熱：入国に際し、黄熱予防接種証明を必要とする国があります。
 2)破傷風：1968年(昭和43年)以降生まれで、小児期に3種混合ワクチンを受けていれば、1回追加接種をします。(12歳で破傷風・ジフテリアワクチンを受けていれば、20歳代前半まで免疫が有り、追加接種は不要です。)
 3)狂犬病：3回ワクチン接種後に咬まれた場合は、さらに追加接種が必要です。
 4)ポリオ：大人は通常1回追加接種のみを行います。1975年(昭和50年)~1977年(昭和52年)生まれの人は、免疫が低く、渡航先が流行国でなくても追加接種が勧められています。
 5)日本脳炎：大人は通常1回の追加接種のみを行います。

黄熱ワクチン接種可能期間一覧(西日本)

名称	電話番号	備考
大阪検疫所	06-6571-3522	第3水曜日を除く毎週水曜日、午後
高槻予防接種センター	大阪検疫所にて受付	第3水曜日、午後
関西空港検疫所	072-455-1283	第2・第4水曜日、14:00~
神戸検疫所	078-672-9653	毎週火曜日、13:00~
広島検疫所	082-251-1836	毎週水曜日、13:30~
高知出張所	088-832-5422	第2火曜日、14:00~
福岡検疫所	092-291-3585	毎週水曜日、13:00~
福岡空港検疫所支所	092-477-0210	毎週水曜日(第3土曜日の週除く)、13:00~、第3土曜日
長崎検疫所支所	福岡検疫所にて受付	第2火曜日、13:00
鹿児島検疫所支所	福岡検疫所にて受付	第3木曜日、13:00
那覇検疫所	098-857-0057	第1・第3水曜日、13:45

海外旅行者向け感染症、ワクチン接種などの情報

- 厚生労働省検疫所
<http://www.forth.go.jp/>
- 日本渡航医学会
<http://www.tramedjstn.jp/>

ワクチン接種のQ&A

- Q: ワクチン接種の副作用は？
 A: 接種後に腫れや痛みなどが時にある。まれにショック症状がやけいれんが起る。(アレルギー体質、以前に予防接種で副作用があった人、妊婦は禁止)
- Q: 子供の海外渡航は？
 A: 感染症の流行地域への渡航は3才以降に。(日本での予防接種が落ち着くため)
- Q: 予防接種の費用は？
 A: 自費。

予防接種のある感染症

A型肝炎

- 1) 感染経路：汚染された水や食物（二枚貝、生鮮野菜、果物類）を介して経口感染する。
- 2) 潜伏期間：15～50日間
- 3) 症状：発熱、黄疸、全身倦怠感、食欲不振、嘔気。
- 4) 治療：特別な治療は無し、対症療法のみ。

※2013年3月より16才未満の小児にも接種許可。

A型肝炎のリスクのある国



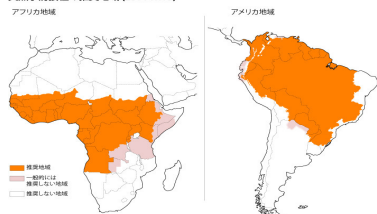
黄熱予防接種の推奨地域 (2014 WHO)
 アフリカ地域
 アメリカ地域

黄熱

- 1) 感染経路：ウイルス保有のネッタイシマカを介して感染。
- 2) 潜伏期間：3～6日間
- 3) 症状：発熱、頭痛、筋肉痛、嘔気、黄疸、鼻出血。
- 4) 治療：特別な治療は無し、対症療法のみ。

※発病すれば致死率は20%

黄熱予防接種の推奨地域 (2014 WHO)

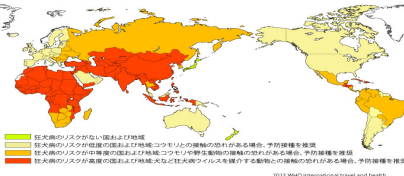


狂犬病

- 1) 感染経路：犬や猫などの感染動物の唾液にウイルスが含まれる。咬まれるだけでなく、損傷した皮膚や粘膜を舐められても感染。
- 2) 潜伏期間：10日～数年間
- 3) 症状：発熱、意識障害、痙攣、恐水症（飲水行動が喉頭部の痙攣を誘発するため）
- 4) 治療：特別な治療は無し。早期に免疫グロブリンと狂犬病ワクチンを接種する事で感染を抑える事は可能。

※発病すると致死率はほぼ100%

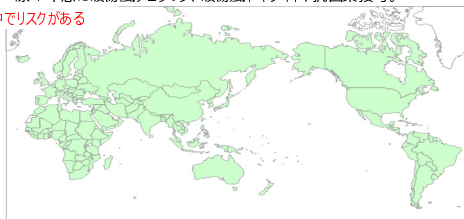
狂犬病のリスクのある国



破傷風

- 1) 感染経路：けがをした時に傷口から破傷風菌が体内に侵入。特に動物の糞便で汚染された土壌。
- 2) 潜伏期間：3日～3週間
- 3) 症状：顎や頸部から始まる筋硬直や有痛性の痙攣発作。開口障害、後弓反張、呼吸困難。
- 4) 治療：早急に破傷風免疫グロブリン、破傷風トキソイド、抗菌薬投与。

世界中でリスクがある

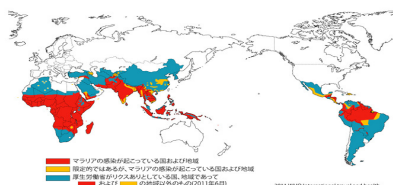


予防接種のない感染症

マラリア

- 1) 感染経路：マラリア原虫を保有しているハマダラカを介して感染。
- 2) 潜伏期間：2～4週間
- 3) 症状：発熱、筋肉痛、倦怠感、重症時は痙攣、呼吸困難。
- 4) 治療：抗マラリア薬（メフロキン等）。早期に治療をすればほぼ治癒。
- 5) 予防：出発前より帰国後の一定期間、抗マラリア薬を内服。

マラリアのリスクのある国



アメーバ赤痢

- 1) 感染経路：汚染された水、食物により経口感染。
- 2) 潜伏期間：2～4週間
- 3) 症状：下痢・イチゴゼリー状の粘便、肝臓痛。
- 4) 治療：抗生物質（フラジール等）が有効。
※世界で毎年10万人程死亡

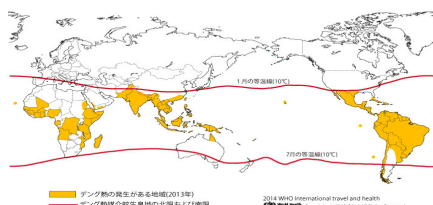
世界中でリスクがある



デング熱

- 1) 感染経路：ウイルス保有のネッタイシマカ、ヒトスジシマカを介して感染。
通常はヒトからヒトへの直接感染は無い。
- 2) 潜伏期間：3～7日間
- 3) 症状：発熱、頭痛、筋肉痛、発疹。
- 4) 治療：特別な治療は無し。

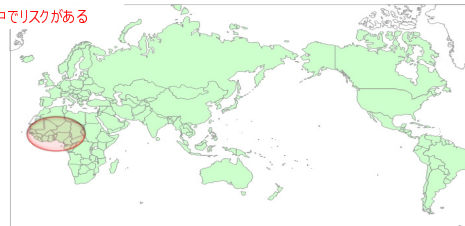
デング熱のリスクのある国



エボラ出血熱

- 1) 感染経路：コウモリから感染。
患者の血液や排泄物に触れ、皮膚よりウイルスが侵入。
- 2) 潜伏期間：2～21日間
- 3) 症状：発熱、頭痛、咽頭痛、目・鼻より出血。
- 4) 治療：特別な治療は無し。
※致死率は60～90%

世界中でリスクがある



最近流行しているエボラ出血熱について

最初の感染は2013年12月2日、ギニア南部2歳児男児が「謎の病気」に感染した。その後家族に感染し、葬儀に参加した人に感染し拡大したと考えられている。

8月26日まで西アフリカ（ギニア、シエラレオネ、ナイジェリア、リベリア）での感染者は3069人、死者は1552人に達している。
海外で日本人感染疑いの患者が2人いたが、エボラ熱ではなかった。

米国で開発中の未承認薬Zmapp(ズィーマップ)は数人に投与され、一定の効果があったと言われている。

日本（富士フイルム）、カナダ、アメリカが承認前の実用化に取り掛かっている。